自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

～1冊の本が人生を変える～

2010 年 2 月

No. 52

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

２０１０年２月までの報告

- ■　10月～2月　南ア KZN 州にて移動図書館 30 校に巡回・農園と図書指導・支援
- ■　10月　グローバル・フェスタ2009に出展
- ■　10月　南ア教師研修
- ■　10月　本 15,203 冊、縄跳び、算数教具などが南アに到着
- ■　1月　TAAA 南ア代表平林、一時帰国、活動報告会開催　下旬、南アへ戻る

目次

南アの近況と TAAA の活動（平林薫）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
カエリチャの移動図書館（久我祐子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
サンディーレを囲む会・TAAA 南ア帰国報告会（米山周作）・・・・・・・・・・・５
ある日の作業風景（西村裕子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
TAAA 会員自己紹介（鯨井幸一）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
南アフリカと共に歩んで（津山直子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
TAAA と私　第 11 回（野田千香子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
新刊紹介：平野克己著『南アフリカの衝撃』（牧野久美子）・・・・・１０
主な活動・ルイボスティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
寄付・会費・本などを下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

わぁ～、面白そうな本がある！　　ンドウェドウェの移動図書館にて

南アの近況とTAAAの活動

平林薫（TAAA 南ア事務所代表）

南アフリカの近況

いよいよワールドカップの年になりました。各地のスタジアムはすでに完成したところもあり、ダーバンのスタジアムはすでに国内リーグの試合に使用されています。メディアは治安について懸念していますが、万全なセキュリティー体制が整えられてきています。これまで“ワールドカップは南アで本当にできるのか？”と疑問視する声もありましたが、素晴らしいイベントになることは間違いありません。ただ、大会開催中、ダーバンなど大都市の町中の路上に生活する人々や子供たちはどうなるのか、大会終了後、スタジアム建設や道路の修復、拡張などで動員されていた労働者たちはどうなるのか、といった問題も残されています。また、地元の人々、特に遠隔地に住む人たちは高い入場券を買って試合を見に行くことはまず不可能だし、電気の通っていない地域もあるので、ぜひ何らかの方法で彼らも試合を観戦できるような環境を作ってもらいたいと思っています。自分たちの国で開催されている試合を、見たくても見られないのであれば、何のための、誰のためのワールドカップなのでしょう。実際、ワールドカップ開催で収入や何らかの恩恵を得ることができるのは、資本やビジネスの経験・実績のあるほんの一握りの人たちです。イベントを成功させることは大切ですが、本当の意味で人々のためのイベントとなって欲しいと思います。

昨年５月に発足したズマ政権は活発な動きを見せています。連日テレビのニュースでは大統領と大臣が、全国各地のコミュニティーを訪問して人々から話を聞き、生活や環境の改善に取り組む姿が映し出されています。ズマ大統領は人々との直接対話が重要と考えており、各大臣も休日返上で地方を回り、地域で何が必要か、緊急に何をするべきかを確認しています。ズマ大統領は、自分一人では十分な仕事はできないことを認識しており、有能なスタッフを適材適所に配置しています。例えば住宅大臣にはハウテン州知事後にビジネス界で活躍していたトーキョー・セクワレ氏を登用し、低価格もしくは無償住宅の建設と譲渡の改善に取り組んでいます。氏はインフォーマル地域の家庭の生活を実感するべくホームステイをしたり、建てられたばかりであるのにコンディションの悪い低価格住宅を指摘して建て替えさせたり、かなり過激に活動しています。もう一人、警察局長は、クワズールーナタール州で治安改善に取り組んだベキ・チェレ氏。まがったことが大嫌いな熱血漢で、全国の局を突撃訪問しては警察官を叱咤激励しています。怠惰な警察官やわいろをもらうようなことは徹底的に許さない姿勢で、最近は警察官が目に見えて真剣に働き始めています。
私が活動で関わっている省庁だけを見ても、明らかに仕事がはかどるようになってきました。例えば州教育省の教育図書情報サービス部門では、これまで学校への本の配布はたま～に見かける程度で、倉庫兼オフィス内にも発送前の本などほとんど在庫がなかったのですが、現在、スタッフも見えないくらいに山積みにされた本が急ピッチで学校に配布されています。ただし、州内全校に一律に配布されるのではなく、各学区から選ばれた学校のみで、私たちが支援している30校の中では4校のみが選ばれました。TAAAがクワズールーナタール州教育省に移動図書館車を寄贈し始めてからかれこれ１０年になりますが、ようやく本格的にバスの運行が始まりました。また、州経済産業省も長く“中小企業振興”をうたってきたのですが、地方の人々にはビジネスを始める知識も資金もなく、政府の方針と現実がまったくかみあっていませんでした。やっと最近、“農業による地方の開発”を打ち出し、様々なプログラムが計画され始めたところです。ズマ大統領がANCの選挙キャンペーンで打ち出したキャッチフレーズは“Working together, we can do more（共に働こう。我々はもっとできる）”でしたが、政府関係者との様々な会合に出席すると、最後にこの言葉で締めくくられることが多く、支持・信頼されているリーダーであることがわかります。現政府はNGOの力を認め、自分たちが柔軟に対応できない部分をNGOに託しており、NGOも政府を毛嫌いしたり、敵視したりせず、協力、協調していくことで、バランス良く、効果的な活動が行われるのではないかと感じています。

TAAAの活動

TAAAから１万5000冊の本が到着

★昨年４月よりボランティア貯金の支援金で開始された図書活動支援プロジェクトは順調に活動が行われています。現在、ンドウェドウェ地域の小学校30校を移動図書館車が巡回訪問して、本の貸出しを行っています。これまでに教師対象の研修会を３回行い、まず“図書室とは何か”の指導から始まり、学校図書室の重要性、利用法、図書室設立準備などについて話し合いをしました。先生方は大変熱心に取り組み、対象校以外の学校からも出席があります。南アの学校は１月開始の４学期制で、バス

移動図書館に集まる生徒たち　　ンドウェドウェにて

は各校を１学期に２回巡回訪問（貸し出しと返却）しています。バスに搭載する本は図書館用ソフトにバーコード登録し、各校の先生方には利用者カードを作成しました。生徒が本を借りる際には、担任もしくは図書担当の教師のカードを利用します。本の貸出しは高学年、もしくは“図書クラブ”のメンバーを対象に行い、低学年は先生にクラスで利用する本を選んでもらうようにしています。とはいえ、バスが学校に到着すると低学年の生徒たちが興味津々で集まってくるので、バスに乗せてあげたり、絵本を取り出して見せたりしています。ページをめくるたびに大きな目をまん丸くして、大歓声が上がります。また、教師も読書を楽しめるよう、大人向けのミステリーや歴史、ノンフィクションなどもバスに積んで貸出しを行っています。

★対象校の中でも特に活発に図書活動を行っているデダ小学校。学校菜園活動の時は、男の校長先生が野菜作りにはあまり興味がなく、担当教師にまかせっきりだったため、教師は苦労していました。ところが図書プロジェクトになって、校長はがぜん張り切り、学校図書室設置に向けて熱心に取り組んでおり、早速“図書クラブ”も設立されました。クラブメンバー向けに貸し出しを行う際に当初“一人２冊”と決めていたのですが、クラブの会長から“もっと読みたいのでもう少し借りてもいいですか”と懇願され、結局“読めるだけ借りてもいい”ことにしました。新学期には各校の生徒に感想文を書かせ、優秀者には賞状や賞品を出すイベントを計画しています。

★プロジェクトでは各校の学校図書室設立の支援も行っており、前学期には各校に本棚の寄贈を行いました。空いている教室を図書室に改装したり、スペースのない学校では教室に“図書コーナー”を設置したりしています。長らく放置され、埃のかぶっていた本や本棚が復活した学校もあります。また、すでに図書室に本棚はあるが、教材が不足している学校には、本棚の金額で本を購入して寄贈し、各校には図書室用に世界地図も配布しました。

★10 月末に日本から約４００箱の本が到着し、アルバイトをお願いしてコンテナーから保管場所の教育省図書部門の倉庫兼オフィスに運び込みました。本の仕分けと整理は TAAA 南アフリカ事務所スタッフと、元教師で近所に住むゾーさんに手伝ってもらいました。また州教育省スタッフも時々保管場所に来て、自分たちの管轄する学校に寄贈したいと本を持って帰ります。箱を開けて、まず Primary（小学校）と Secondary（中、高）レベル、大人用に仕分けした後、移動図書館車搭載用の本を確保し、その後、各所に配布、寄贈を始めました。本が届いたことを聞き、州内遠隔地の教育センター２か所の担当者が本を引き取りに来ました。どちらも最近やっと開設されたばかりのセンターで、本や教材がほとんどない状態で周辺の学校へのサポートを行わなければならず、苦労しているようです。それぞれ８箱の本と百科事典、算数セットを大喜びで持ち帰りました。今学期は図書プロジェクト対象校にも本の寄贈を行います。

★JICA 事業で行った学校菜園プロジェクトは昨年３月に終了しましたが、各校では現在でも順調に活動が継続されています。生徒たちは畑を耕し、種を撒き、収穫するまでの課程を自分たちの手でできるようになり、畑の水やりや世話は生徒たちの日課となっています。菜園活動がとても活発に行われたムチャトゥ小でダイコンの種を撒き、育ててもらったところ、とても美味しいダイコンが収穫でき、実験は大成功でした。菜園活動を行っていく中で、地域の農業の可能性を実感しています。最近では学校の近くのコミュニティーで家庭菜園も見られるようになってきており、将来的には、換金作物を栽培するなどして野菜作りが地域の産業となり、雇用をつくりだすまでに成長していかれるよう、学校や地域の人たちと活動を続けていきたいと思っています。

ほうれん草が大きくなった。大根も大成功！　2009 年 10 月

カエリチャの移動図書館

～西ケープ州教育省図書部門（EDULIS）からの報告～

久我 祐子

ケープタウン国際空港からケープタウンに向かう途中に、最大規模のタウンシップ、“カエリチャ”があります。カエリチャは、地方や近隣諸国からの移住者も多く、トタン板や粗末な木材でできたシャック（掘っ立て小屋）が所狭しに建ち並び、大海原のように広がっています。　風光明媚な観光地であり、欧米諸国のセレブの別荘地としても有名なケープタウンが、実は極貧と隣り合わせで存続していることを証明するかのように広がりをみせるカエリチャは、貧困、犯罪、ＨＩＶなどの南ア都市部の典型的な問題をかかえています。　ここで、ＴＡＡＡが４年前送った移動図書館車が元気に走っています。プロジェクトを滞りなく運行しているのは、西ケープ州教育省図書部門（EDULIS）です。

支援対象地域、学校、生徒たちの情報

●対象地域 /西ケープ州　ケープタウン近郊　カエリチャ　● 対象/16 校　●対象生徒数 /17,487 名
●校内に図書館がある学校/7 校　● 学校が行っている読書習慣を高める教育の実施/毎日 30 分間の読書時間、アクティビティを兼ねた読書期間　●全国標準と比較した生徒たちの読み書きレベル/低い　●中途退学者の比率/小学生では少ない　●退学の主な理由/移住　●親たちの主な仕事/肉体労働者、　家政婦　●片親に育てられている生徒の比率//約５０％　●学校給食について/西ケープ州教育プログラムにより、最も貧しい家庭の学童にのみ提供
★移動図書支援対象校には、すべて給食が配給されています。 月～木/調理された食事　金/サンドウィッチ

移動図書館プロジェクト情報

●２００６年８月開始　●スタッフの数および職種/運転手１名・司書１名/アシスタント１名　●車種/三菱キャンターMMC　（1989 年） 地元では、「ピンキー」と呼ばれています。●貸出/生徒のために教師が借りる　●移動図書館の学校巡回頻度/一校につき、3 週間に一回訪問する　●生徒に人気がある本/**10 歳以下**：絵本、参考書、教師用補助教材　**10 歳～14 歳**：小説、参考書　●よく利用する生徒の年齢層/6 歳から 11 歳　●不足している本：絵本、小説（特に母語であるコサ語）、　参考書、コサ語の教材、コサ語のノン・フィクション　●バスが一巡回に運ぶ冊数/約 2,000 冊　●１校に貸し出す冊数/約 100 冊
●プロジェクトに対する教師たちの姿勢/積極的にかかわっている。●プロジェクトの主な問題点/学習・読書文化がなかなか育たない。教師たちが、読書習慣を育て、授業をうまくサポートするために、どのように図書を活用すればいいかを十分理解していない。●この２，３年間におけるプロジェクトの３つの主な進展　①対象校が１５校まで増えた。
②教師たちが、図書サービスの内容を理解し、借りた本を授業に効果的に活用する方法を学んでいる。借りた本に対する責任感が育っている。
③　図書担当の教師たちが、自分たちの学校内に図書室を設置することに意欲的になってきている。

カエリチャの住宅地

移動図書館車がカエリチャの学校を巡回

南アフリカ・ストリートチルドレンへの支援　～サンディーレ・ムカディさんをお迎えして～

1 月 6 日（水）18:30～20:30　丸幸ビル 2 階オックスファム会議

TAAA 南ア事務所の平林代表のパートナーであるサンディーレ・ムカディさんがこの度来日され、アフリカ日本協議会 AJF 主催の活動報告会が実施されました。サンディーレさんは少年時代のアパルトヘイト終焉期に白人サーファーから中古ボードをもらい、泳げないままにサーフィンを始めましたが、その後南ア・ジュニア代表に選ばれるほどの腕前となりました。現在はサーフィン審判の国際ライセンスを持ち、世界大会のジャッジとして活躍していますが、彼のもう一つの顔が、地元ダーバンで、ストリート・チルドレンを更生支援しようとする NGO「ウムトンボ」のスタッフです。

国際会議も開かれる南ア第 2 の都市ダーバンですが、家庭の事情などで行き場を失った多くの子ども達が路上で生活する街でもあります。若さを持て余し、将来に絶望してシンナー中毒となったり、また犯罪に走ろうとしたりする十代の子ども達に、サンディーレさんはサーフィンを通して自信や希望を与え、最終的には家族や学校に戻すための支援を行っています。ダーバンだけでも 500 人のストリート・チルドレンがいるとのことですが、時には親にも働きかけ、「厳しい環境にあっても未来があることを伝えたい」として活動を続けています。実際にストリート生活を脱した子ども達も多くいます。

当日はスライド写真を通してその活動の様子を発表していただきましたが、語られる言葉とは対照的な近代的な高層ホテルや青く美しい海と空が、南アの実態を映し出しているようでした。

ウムトンボの HP より

TAAA 南ア帰国報告会　南アの子ども達・地域への教育・農業支援

1 月 9 日（土）14:00～16:30　埼玉県労働会館　第 3 会議室

平林さんからはまず、TAAA の送った移動図書館車で、10 年に渡って運転手兼司書を務めて下さったアブソレムさんが亡くなられたとのご報告がありました。追悼の意が述べられた後、スライド写真を通して、移動図書館車や学校菜園の支援活動の様子が発表されました。学校菜園は JICA の技術協力事業として公的助成金を受けたプロジェクトですが、たくさんの新鮮な野菜が生徒達の手で育ってきており、教育活動としてだけでなく、収穫後には、給食や地域住民の作物栽培にもその成果が広がっていくことが期待されています。平林さんの発表後には、上述のサンディーレさんからもご挨拶があり、ウムトンボの簡単な活動紹介もありました。休憩を挟んで 3 つのグループに分かれての討議となりましたが、ズマ政権の今後の課題や 6 月に開催されるサッカーの W 杯開催などについて意見が交わされました。

懇親会には、初めてお越しいただいた新しい方も多く残って下さり、TAAA の輪がまた広がりました。長く TAAA を支援して下さっている地元の方、年末に初めて南アを訪れて関心を持った方、アフリカ支援に携わる NGO の方、国際交流基金を通して日本語を学んでいるケニヤの方、南アの特集番組を制作されるというテレビ局の方など。今後も様々なバックグランドの方が TAAA に関わり、南ア支援に携わっていくことを期待しています。

（米山　周作）

ある日の作業風景

西村裕子

まだ半袖でも寒くない昨秋の作業日。この日は、TAAAスタッフの参加者4名で、いつもより少し少なかった。でも、浦和学院高校の生徒さんがお2人来て下さったので、大助かり！田中さん・塚田さんは、もう何度もいらしてくださっているので、安心して作業をお願いできる。作業が始まる前にも、外回りの落ち葉掃きで大活躍！しかも、まだ倉庫の鍵が開いていなかったので、掃除用具がなく、急遽、ダンボールを使ってのお掃除となった。このようなことにも、目を向けてくださること、とっても大切だけれど、忘れがちなこと。何かを運営したり、参加したりすることは、そのメインのお仕事だけでなく、どうしたらみんなが気持ちよく動けるか・・そのような心配りが出来るのって、素晴らしい！田中さん・塚田さん、お2人はこれから社会でお仕事される時も、いつも大活躍されるのでしょうね。

左：お掃除用具がなくても！ちゃ～んとお掃除できました。工夫工夫♪
右：セルフタイマーのシャッターが切れるまでに、誰かが面白いことを言ったのかな？みんな笑顔♪

そして、この日の午後、私たち4名は、「貧困をなくすために、立ち上がる。」STAND UPに賛同し、参加しました。TAAAは「動く→動かす（途上国の貧困問題に取り組むNGO52団体のネットワーク。発足は2009年3月。貧困を生むしくみを変えるためのアドボカシー活動を実施している http://gcapj.blog56.fc2.com/）」のフレンド会員登録をしています。「世界貧困デー（10月17日）」を挟み、10/16～10/18 に、「貧困をなくしたい。その思いを立ち上がって表現しよう」という世界同時イベントがあり、ちょうど作業日と一致したので、アクションを起こしました。
この間、世界中で、1億7，304万5，325人がSTAND UPをしたそうです。そして日本では、675件、3万4，255人の報告が寄せられました。大切なことは、関心を持ち、それを伝え、そして行動することだと思います。アクションを起こさなければ、何も始まりませんね。さいたま市の小さな作業場で、4人の両手が高く上がりました↑↑↑↑今年は

世界 189 ヵ国のリーダーたちが「2015 年までに世界の貧困を半減すること」などを約束しました。しかし、開発途上国への資金援助や技術支援は進んでおらず、目標の達成は大変むずかしいと言われています。そのような状況のなか、2006 年に始まったグローバルアクションが“STAND UP”です。昨年は、世界各地で 1 億人以上の市民が貧困問題を解決するために「立ち上がり」（STAND UP）、その参加人数でギネス記録を更新。各種マスコミからも注目を集め、世界の貧困をなくすという強い声を各国のリーダーたちに届けました。
今年 9 月下旬に、達成期限まで残り 5 年となったミレニアム開発目標（MDGs）の過去 10 年の取り組みを振り返り、今後の方向性を示す国連の重要な会議が行われます。 そこで、会議に集うリーダーたちに「貧困を終わらせる約束を守って」という声を届けるために、世界貧困デー（10 月 17 日）前後ではなく、会議前の 9 月に STAND UP を実施することを各国の STAND UP 主催者で話し合っています

9月に、STAND UPが予定されています。一部、HP（http://www.standup2015.jp/） より抜粋しました。

TAAA 会員自己紹介

鯨井　幸一

始まりは、おぼろげである。

よく、人に、「南アフリカに関心がある」と、言うと、「へっ？」とか「何で？」と聞き返される。大学時代に何か作文を書いてこい、と言われテーマにしたのは「アイヌ問題」。最初に関心を持った国際問題は、「中台関係」であった。何で南アフリカに関心を持ったか本当に分からない。でも、１９９２年頃から文献を読んだり、新聞のスクラップをしているから、「南アフリカ関心歴」は１８年目に突入した。ＴＡＡＡの歴史と符合する。何かの縁であろうか？丁度、マンデラ氏のＡＮＣとデ・クラーク大統領率いる白人政府との制憲議会開催に向けての交渉が難航していた頃だ。

私が、南アフリカに関心を抱いた理由はよく分からないままだが、強引に“後付け”してみた。第一に、マンデラ氏のことを“敬愛”しているから、である。私は氏に会ったことは当然ないが、色々勉強しているうちに、「彼ほど偉大な人物を古今東西知らない」と思うようになる。そうすると、氏について色々知りたくなる。第二に、南アフリカで起きたことを、“キチン”と知ろうと思ったから、である。なんで、こんなことを書くかと言えば、１９９５年に起きた「マルコポーロ事件」が脳裏に焼き付いてたまらないからである。マルコポーロ事件について、詳細はここでは述べないが、これをきっかけに、史実を“キチン”と知ろうと強く思うようになった。しかし、所詮、後付け。本当のところは分からないままである。

私は、読書によって南アフリカについての理解を深めようとしていた。ここで、特筆すべき出来事があった。１９９５年のことである。１９９５年は私の人生の中でも、特に重みを持つ年である。１月に阪神淡路大震災が発生。３月にはオウムによる地下鉄サリン事件。大学を卒業し、社会人となったのもこの年である。１１月には Windows 95 が発売された。また、マルコポーロ事件が起きたのもこの年である。そんな時、６月に明石書店から『南アフリカの歴史』が発売された。この本を手に取って、自分の無知を大いに知ることとなった。本当に衝撃的であった。以後、数え切れないほど読むようになる、“至高の本”との出会いであった。

読書を通じて、知識は身について、人より南アフリカについて詳しくもなってきただろう。だが、この辺りから、ある疑問が生じるようになる。「こんなことをしていても、南アフリカは少しも良くならないのではないか？」別に、南アフリカをどうこうしようと思って、勉強を始めたわけではないが、知れば知るほど、何か行動を起こさねばと、思うようになった。吉田ルイ子さんが上梓した、『MASAKANE　南アフリカの新しい風』と出会ったのは丁度この頃。この本で、ＴＡＡＡの存在を知ることとなる。

最初は、ＴＡＡＡへの寄付であった。次第に帰国報告会にも参加するようになり、そして、自分の手で直接、南アフリカと繋がりたいと思い、“聖地”『鈴谷』（本の梱包作業場の地名）に顔を出すようになり、現在に至る。

本当に殺伐とした世の中である。シニシズムが横行し、額に汗することや努力することを“かっこわるい”と思う。人の揚げ足を取ることに精を出し、他人の不幸を「蜜の味」とばかりに喜ぶ。表現の自由の意味をはき違え、他人に罵詈雑言を浴びせる。自由には責任が伴うことを知らないが如き、である。

そんな中、ＴＡＡＡの存在はとても大きいと思う。喉元過ぎれば、の日本人気質のなかにあって、２０年近く一つのことに邁進する。なかなか、出来ることではない。ましてや、報奨を求めているわけでもなく。

ＴＡＡＡスピリットが南アフリカの子供達に引き継がれ、いつの日か、彼ら彼女らが大きくなった時、困っている国と出会ったら、そのスピリットを遺憾なく発揮してくれたならば、これに勝る喜びはないのではなかろうか。

南アフリカと共に歩んで

TAAA 会員・JVC 南アフリカ事務所前代表
津山 直子

TAAA が発足してから 2010 年で 18 年になります。私は発足の頃、ANC（アフリカ民族会議）東京事務所で働いていました。ANC は今では国会議席の 2/3 を有する南アの政権党ですが、当時は民主化が実現する前で、東京事務所は小さなオフィスに所狭しと反アパルトヘイト・キャンペーンのために販売するＴシャツやバッジ、ブックレットなどが積まれていました。変わったものでは、マイ箸セットがあり、ANC の旗の色（黒、緑、黄）でデザインした箸と緑の箸箱に黒字で「Save the Forest, Destroy Apartheid（森を守り、アパルトヘイトを壊そう）」と書いたもので、人気の品の一つでした。

日本国内で民主化への理解と連帯を進め、南アの人々と連携し、支援していく活動は全国に広がり、代表のマツィーラさんを含め３人しかスタッフがいない事務所はいつもてんてこ舞いでした。たくさんのボランティアの方に助けられ、その一人が TAAA を創設した野田千香子さんでした。

本が不足していた南アの学校や識字教室の人たちに、日本で英語の本を集めて送るという活動を始めた TAAA が、「無理なく、長続きさせよう」という地道な活動の積み重ねで、移動図書館車、学校での HIV／エイズの予防啓発、学校菜園と、南アの人々との絆と信頼を深めながら、活動を広げてきたことは本当に意義深いことだと思います。私はその後、日本国際ボランティアセンター（JVC）のスタッフとなり、南アに滞在していたので、現地で TAAA の皆さんと協力しあってきました。JVC が菜園の普及を行っているリンポポ州の人たちと TAAA の活動地の人たちが、訪問しあって学びあう経験交流も行いました。昨年 15 年ぶりで日本に戻ってきたのを機に、TAAA の会員として仲間入りさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

私の友人に、Gcina Mhlope(チナ・ムショペ)さんという素敵な女性がいます。ジョハネスバーグで家政婦として働きながら小説や詩を書き始め、女優としても活躍するようになりました。その後、子どもたちに民話や創作した話を伝えていくストーリーテリング(Storytelling)の第一人者として、南ア国内外で公演し、世界的にも高く評価されてきました。いつも村の子どもたちを集めてお話を聞かせてくれた祖母が、彼女のもっとも尊敬する人です。現在は故郷であるダーバンに住むチナさんが、一番力を入れているのが、本を集め、クワズールー・ナタール州の農村部の学校を回り、本を届けながら、ストーリーテリングをしていくことです。その活動は、「Nozincwadi – Mother of Books（本の母）」と呼ばれています。

チナさんの子どもたちに寄せる想いは、南アに本を送り続ける TAAA のメンバーと共通していると思い、紹介しました。本を読む楽しみや喜びを知る子どもたちの輪が、どんどん広がっていくことは素晴らしいことだと心から感じています。

後列左から平林、久我
前列左から津山、野田

TAAAと私

第１１回 （1997～98年）　　野田千香子

移動図書館車が動き出すまで

１９９５年に出荷してから、１９９８年までに日本から南アへ送った移動図書館車は１０台であった。到着してから一定期間の手続きを経て、順調に稼働を始めたものもあれば、あれやこれやの理由が生じて、開始までに４年もかかった車もあった。寄贈先は、初期においては南アのNGOが主であったが、財政的に維持管理が困難になり、西ケープ州やハウテン州の教育省図書情報部に移管するケースが多くなった。南アのNGOはアパルトヘイトが終了したのち、外国からの支援が届かなくなり、どこも財政状態が厳しくなってきていた。

１９９７年に送った２台は最初、西ケープ州のNGOに送ることになっていた。ケープタウン市長も臨席し、盛大な移動図書館受領式典が行なわれた。TAAA の出席も要請されたが、そのために南アを訪問するのは資金上の優先順位から考えると難しいので断り、ケープタウンに在住されていた福島さんに壇上で挨拶をしていただいた。式典は盛大だったようだが、その後、移動図書館が動き始める気配がなく、何回かの交渉の末、西ケープ州教育省に移譲することとなった。移動図書館車は車と本だけがあっても走り出すことはできない。安全なガレージ、大型車の運転手、司書、書庫が必要である。本の分類や登録にもスタッフがいる。ガレージが用意できたとしても、人件費として少なく見積もっても、年間２００万円の費用がかかる。１９９７年の１１月にTAAA から４人が南アを訪問し、移動図書館運行の予定地であった果樹園で有名なセレスと鯨見物で知られる町エルマナスを訪れたが、そこでの実施は実現せず、ケープタウンの郊外のエルギンとズアールという全く別の地域で運行されることとなった。エルギンでの移動図書館の運行報告は、会報 51号に、久我祐子さんがまとめている。運行が開始されてからずっと大切に使用され、地域の学校に貢献していることが毎年の報告によって、明らかにされている。

この山間を走る車は２台とも、日本を出る際にすでに１０年を超えていたので、今では　２０年を遥かに超えていることになるが、好調に巡回を続けているのだ。

6トンの本を一度に貰う

１９９６年度には１年間で２０６１６冊、１９９７年は１３１７６冊、９８年度は３４２１０冊の本を南アに送った。ここ数年は十分な広さの倉庫兼作業場を使っているが、当時は作業場（作業専用ではなく、学習塾に使っている部屋）の椅子や机を脇に寄せて、場所を作り、そこで梱包作業を行ない、５０箱～７０箱ごとに送り出していた。月一度の作業の終了時に、机と椅子を元に戻し、ダンボール箱は、外の物置と教室の端に積み重ね、場所を開けて次の本を受け入れるために、すぐに出荷するという自転車操業であった。

米軍基地の中の小学校が教科書を入れ替える際、４トントラックいっぱいの教科書を寄贈してくれた事も何回かあった。　英語で書かれた国語、算数、理科などの教科書は、読み物としても、副教材としても、本が決定的に不足している南アの学校で役に立つことが分かっていた。何としても送りたい、しかし、受け取って保管する場所がない。２トントラック分を置くのがやっとという作業場の状況であった。なんとか、４トン分を南アに送る方法はないか。基地から直接、出荷してしまうほかなかった。まず、船便を商船三井に確保して貰い、それに合わせて、引き取り日を決める。４トントラックを手配し、その日に基地へ来てもらう。私たちの方は、リュックに秤とラベルと筆記具を入れて基地へ向かう。基地のゲート内に入るのには、４トントラックのナンバーや私たちの人数なども前もって届けておかなければならない。さらに加えて、３時までに梱包作業を終えた箱をすべてトラックに積み終える必要があった。３時までにトラックは出発しないと、当日中に港に荷を入れることができず、翌日までトラック使用を延期することになってしまうからであった。学校を対象とするので、ウイークデイに限られるとなると、こちらからは私を含めて二人しか行ける人がいなかった。

横須賀の基地には高校教師の下谷房道さんと私が出かけた。下谷さんが秤の入ったリュックを背負い、朝６時に家を出た。基地内のアメリカンスクールの廊下に膨大な数の本の箱が置かれていた。箱は、通常、輸出用に使っている二重カートンではなく、あり合わせの大小様々な不揃いな箱で何冊入っているのかも分からなかった。最初のうち、下谷さんも私も必死で一旦、箱を開けて本の冊数を数え、重さを量り、それを箱の外側に記載し、集計表にも書き入れ、用意してきたダーバン行きのラベルを貼って・・と、いつもの作業の行程で仕事をしたが、時間を見るとこの調子ではとても、３時にトラックに積み切ることは不可能だと分かった。もう１０年以上前のことなので言えることだが、昼過ぎからは、重さを量る時間がなくなってしまい、２１ｋｇ、１９kg などと推定で書き込み、ときどき心配になって量ってみると、ほとんど推定値と合っていたりすることもあった。どうか税関などで厳密に調べられませんように、と祈りながらとにかく滅茶苦茶に働いてなんとか３時に出荷させたのであった。４トントラックは本の箱を満載して基地を出発して行った。このような無理な出荷の仕方を行なったのは一回や二回ではなかった。９．１１の前も基地に入るのには面倒な手続きが必要であったが、９．１１の後は基地の学校と連絡をとるのをためらっているうちに、基地の学校関係者からも連絡が入らなくなった。

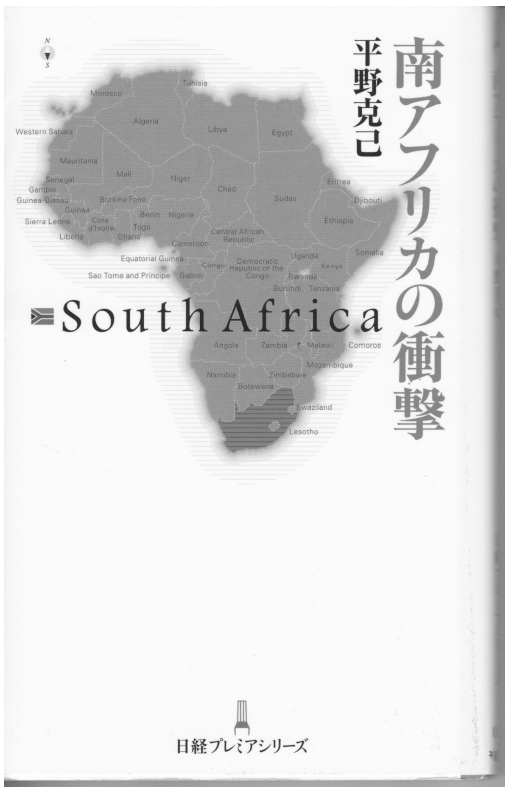
新刊紹介：平野克己著

『南アフリカの衝撃』

ジェトロ・アジア経済研究所研究員
牧野 久美子 （ＴＡＡＡ会員）

著者の平野氏はこれまで 3 回、南部アフリカに長期滞在している。1 度目は 1980 年代にジンバブウェの日本大使館専門調査員として。当時、南アに大使館がなかったので、著者は隣国から南アをウォッチしていた。次いで 1994 年の歴史的総選挙をはさむ 2 年間、南アの名門大学、ウィットウォータースランド大学の客員研究員として。そして直近では日本貿易振興機構（ジェトロ）ヨハネスブルグ･センター長を 2007 年まで務めていた。

こんな「著者略歴」を長々と紹介したのは、本書を読んで、著者の南アとの関わりの深さと広さを改めて感じたからだ。南アはアフリカのなかでは在留邦人が突出して多い国だが、ふつうは企業や団体の駐在員、あるいは研究者といった特定の役回りが行動や人間関係を限定するものであり、著者のように立場を変えながら長期にわたり南アに関わってきた人を私はほかに知らない。本書には、そんな著者の個人的な体験談が多数挿入されており、平板な概説書からは決して得られない「生の」南アの雰囲気を伝えてくれる。もともと、専門の経済学以外の文献も積極的に渉猟し、政治も歴史も自在に語る著者である。本書は、コンパクトながら南アの多様な側面を縦横に論じており、さらには南アを入り口としたアフリカ経済の入門書ともなっている。



本書のトーンは決して明るくない。とくに本書の前半では、凶悪犯罪や汚職の蔓延、農業低落を一つの背景とする大量失業といった、現在の南アの負の側面が強調される。しかし、本書全体を読めば、著者が南アという国の潜在力を認めていることは明らかだ。とくに著者が注目するのが民間企業の動向――南ア企業のグローバル展開とグローバル企業の南ア展開――である。アフリカに関心を強める資源ビジネスは、アフリカに経済成長をもたらし、開発援助を軸とした従来のアフリカと世界経済の関係を大きく変えた。飛び地的な性格の経済成長は、貧困や格差の是正に直結するものではなく、偏在する富の再分配や社会開発における国家や市民社会の役割は今後も重要であろう。しかし、好むと好まざるとにかかわらず、いまや企業の動きを理解することなしに、南アを含むアフリカの将来を見通すことは不可能だということを本書は教えてくれる。

（日経プレミアシリーズ 064、2009 年　定価：本体 850 円＋税）

◆　主な活動（2009 年 9 月 16 日～2010 年 1 月 15 日）　*下線は南アにおける活動*

9/16～18 ンドウェドウェ学校訪問（移動図書館車で）　平林薫

9/19 作業と会議 鯨井幸一 浅見克則 北爪健一 渡辺英通 下谷房道 野田千香子 多摩大丸田さん、浦和学院高校の菅家陽菜さん 関谷明香さん 和田惠さん 渡辺悠さん 及川愛さん 高橋さん

9/20 住所ラベル用意　西村裕子

9/21～22 ンドウェドウェ学校訪問（図書車）　平林

9/20～28　会報51号の編集　野田

9/25～30 ズールー語の本と学校寄贈本棚の選択と購入　平林

9/28 日本テレビ ZERO にて TAAA 南ア活動を報道 サッカーの北澤豪氏が取材

10/1　会報51号校了　野田　西村

10/3 グローバルフェスタ出展（日比谷公園）　野田 中野敦子　丸岡晶　山下八千代

10/4 グローバルフェスタ2日目　中野 野田 西村 上林潤子 渡辺英通

10/5「ひろしま祈りの石」財団へ第2四半期報告提出　*平林薫*　野田

10/5～7 ンドウェドウェ学校訪問と研修会準備　平林

10/8 本15203冊、縄跳び 2000 本、南アへ出荷　野田

10/8 移動図書館プロジェクト教師研修会ウグにて　平林

10/10 埼玉大学付属小・中同窓会で TAAA の話　野田

10/12　会報51号を発送準備　野田

10/12～16 ンドウェドウェ学校訪問　平林

10/17～22 鈴木鉄工所寺田氏と州内のンティングウェ茶園と学校訪問　平林

10/18 作業と会議 西村 浅見 野田 下谷 浦和学院高校より 田中悠真さん 塚田慧美さん

10/26～28 ンドウェドウェ学校訪問（図書車）　平林

10/29（株）コンセプションのチャリティイベント打ち合わせ恵比寿訪問　野田　久我祐子

10/29 プンガシェ教育センターの図書イベント　平林

10/30　11/2～5 ンドウェドウェ学校訪問　平林

11/2 JANIC ダイレクト更新　野田

11/6 州教育省図書部門(ELITS)オフィスへ日本から到着の本を搬入約400箱　平林

11/8（株）コンセプション3店舗より 11/5 の売上金を TAAA へ寄付いただく

11/9 ELITS オフィスで本の仕分け作業　平林

11/10 ンドウェドウェ学校訪問　平林

11/11 本その他30箱を作業場へ搬入　渡辺

11/11～13 ・16 ELITS オフィスで本の仕分け作業　平林

11/12 作業と会議　西村 北爪 野田 浅見 上林 鯨井 下谷

11/15 会計入力　西村

11/17　ンドウェドウェ学校訪問（図書車）　平林

11/18～19　ELITS オフィスで本の仕分け作業　平林

11/20・23～25 ンドウェドウェ学校訪問（図書車）平林

11/26 ELITS オフィスで本の仕分け作業　平林

11/27 ELS より本寄贈。引き取り　浅見　上林

11/27 ミーティング　浅見　上林　野田

11/30 ンドウェドウェ学校訪問・南ア TAAA 事務所クリスマスパーティー　TAAA 南アスタッフ

12/1 JICA にて打ち合わせ　野田　久我

12/2 ELITS にて本の仕分け作業　平林

12/3 ウグ郡経済産業省にて会議・ELET クリスマスパーティー　平林

12/5 報告会 web リリース　丸岡

12/5 住所ラベル用意　西村

12/1～10　JICA 事業申請書準備　平林

12/6 HP 更新　渡恵美子

12/10 作業場の外、整備　北爪

12/10 ELITS オフィスにて本の仕分け　平林

12/11 JICA 提案書修正　久我

12/13 作業と会議　浅見 野田 西村 鯨井 下谷 丸岡　浦和学院高校より丹治奈那美さん 田辺千絵さん 田中さん 塚田さん 重盛有香さん 井上紗彩さん　大森綾香華さん

12/14　日本へ一時帰国　平林

12/15 JICA に書類提出　野田

12/17　白鴎大学教育学部で TAAA 活動を講演　野田

12/20 AJF 忘年会ケニヤ大使館にて 平林 サンディーレ・ムカディ　久我　野田　渡辺

12/29 本を運搬　渡辺

12/31 ミーティング　浅見　野田

1/6 サンディーレを囲む会　平林　野田　米山周作

1/7 朝日新聞首都圏マリオンに TAAA 報告会の予告

1/9 さいたま市にて TAAA 活動報告会　29人

1/11 サンディーレ・ムカディ、南アへ帰国

1/11 TAAA の HP 更新　渡

1/13 会議　平林　浅見　野田　丸岡

（1/23 平林、南アへ戻る）

ルイボスティのご紹介

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれる健康茶です。カフェインが少ないのでどなたでも召し上がれます。

1箱 80 パック　2000 円（送料一律 500 円）
（5 箱以上 送料無料）

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みは、P12 のTAAA連絡先へ

ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。